

令和7年度評価モデレーション年間計画

	5月	7月 運営指導委員会	7月 SSH 部会	7月	夏課外	9月	12月	12月 SDGs×Diversity!	2月 運営指導委員会
1年 探究進学科					⑨			⑬	
2年 探究理科								⑬	
3年 探究理科	①			⑥		⑩			
2年 探究文科								⑬	
3年 探究文科	②			⑦		⑪			
1年 普通科							⑫	⑬	
2年 普通科								⑬	
3年 普通科	③							⑬	
授業担当教員	①②③			⑧	⑨	⑩⑪	⑫	⑬(自由参加)	
SSH 研究推進部	①②③	④	⑤	⑧	⑨	⑩⑪	⑫	⑬	⑭
運営指導委員		④							⑭
何を使って	・研究資料 ・ポートフォリオ	・発表スライド評価 基準表 Ver.1	・研究ポスター	・研究ポスター	・研究ポスター	・発表スライド評価 基準表 Ver.2 ・研究スライド or 研究ポスター	・研究ポスター	・研究ポスター	・発表スライド評価 基準表 Ver.3
どのように	これまでの「問い」 の変遷や、失敗した 実験についてアウト プットし、生徒教員 全員で研究の過程を 振り返る。	SSH 部員から、目 指すべき研究の姿や 評価の目的を運営 指導委員に伝え、 意見交換をすること で、運営指導委員 が考える理想とす り合わせる。	SSH 部員の各授業 担当者が各授業の ねらいを踏まえて 選んだ研究ポスター をもとに、SSH 部 員間で評価モデレ ーションを行う。	各授業で、⑤で決 定した研究ポスター を用いて、生徒間 および教員間(別々 に実施)で評価モ デレーションを行う。	各授業で、⑤で決 定した研究ポスター を用いて、生徒間 および教員間(別々 に実施)で評価モ デレーションを行う。	④で作成した研究 評価基準 Ver.2 を 踏まえて生徒教員 全員で評価モデレ ーションを行う。	各授業で、⑤で決 定した研究ポスター を用いて、生徒間 および教員間(別々 に実施)で評価モ デレーションを行う。	学科や学年を超え て、全員で評価モ デレーションを行 う。可能であれば 国を超えて実施。	今年度の評価モデ レーションを踏ま えて、目指すべき 研究の姿や評価の 目的を運営指導委 員に伝え、意見交 換をする。
目的	・課題研究を通し て成長した部分を 教員が知り、学び の経歴として3年 担任と共有する。 ・後輩が研究を継 続する際の財産と する。 ・主体性評価方法 を考える材料とす る。	・SSH 研究推進部 が、学術的な研究 の理想や課題研 究の在り方等を 知る。 ・全国規模の発表 会に通用する研 究評価基準 Ver.2 の作成。	・SSH 研究推進部 の評価能力の向 上、すり合わせ。 ・⑥～⑨に使用 する研究ポスター の妥当性を図る。	・生徒と教員の課 題研究の目的の 顕在化と共有。 ・協働する力の育 成。	・生徒および教員 のそれぞれの課題 研究の目的の顕 在化と生徒同士お よび教員同士の共 有。 ・協働する力の育 成。	・生徒と教員課題 研究の目的の共 有とすり合わせ。 ・協働する力の育 成。 ・研究評価基準 Ver.3の作成。	・生徒および教員 のそれぞれの課題 研究の目的の顕 在化と生徒同士お よび教員同士の共 有。 ・協働する力の育 成。	・生徒と教員課題 研究の目的の共 有とすり合わせ。 ・(国際的に)協 働する力の育成。	・評価の課題の洗 い出し。 ・来年度の実施目 標の設定。